

【バッグリミット・アンケートの集計結果発表】 (釣り人と釣具メーカー、地域の違いを比較)

JGFAタグ＆リリース魚類保護委員会では、2009年2月7～8日に開催された「フィッシングショーオー大阪」、同年2月13～15日開催の「国際フィッシングショーオー2009・横浜」に来場した一般釣り人、そして、横浜では出展メーカーにもお願いして「バッグリミット」に関するアンケートを実施いたしました。

アンケートは、釣りのジャンルを問わず、広く回答を得られました。

これは、『【バッグリミット】という言葉とその意味がどの程度釣り人や釣具メーカーに理解されているのか？』さらには、『どんな考えているのか？』を含めて現時点での知識、意識を探るために行われたものです。

アンケート結果をご紹介する前に、バッグリミットという言葉の本来の意味をお知らせしておきます。

本来の意味をご理解いただいた上で、アンケート結果をご覧いただければ幸いです。

【バッグリミットの本来の意味】

「バッグ(魚を入れる袋)、リミット(制限)」ということで漁業や釣りにおいては、対象となる水産資源の量を維持するために、持ち帰る尾数、サイズを制限すること。あくまでも持ち帰る分についての制限であり、釣りの場合、釣る尾数やサイズの制限ではない。つまり、いくら釣ってもいいが、持ち帰る分は守りましょうというシステムである。

バッグリミットを超えた分は、生かしたまま、放流すればいいこととなります。」

まとめ：JGFAタグ＆リリース魚類保護委員会

●アンケート回収総数(件)

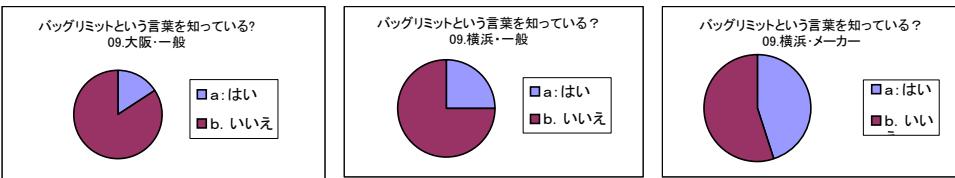
(1) 大阪(一般) :	347
(2) 横浜(一般) :	585
(3) 横浜(メーカー)	89
計	1021

表記の%は小数点以下四捨五入。

●アンケート結果を比較できるようにグラフを並べて表示します。(左から順に、(1)大阪・一般、(2)横浜・一般、(3)横浜・メーカー)

【結果】

【設問1】バッグリミットという言葉を知っていますか？



★「知っている」と答えた比率は、横浜(メーカー)45%、横浜(一般)25%、大阪(一般)16%の順となった。

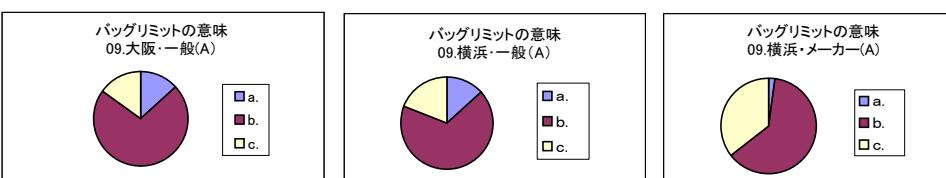
【バッグリミット】の認知度はまだ低いといえよう。

次に、まず、1で「知っている」と答えた人のアンケート結果をまとめ、【A】としました。
また、知らないと回答したグループの回答を【B】としました。

【A】バッグリミットという言葉を「知っている」と答えた人の回答

【設問2】バッグリミットの意味を知っていますか。(正解はC.)

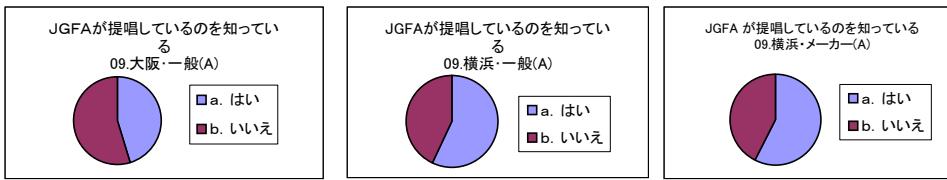
- a. 釣つたらその場でバック(戻す)つまり、リリースすること
- b. バッグリミット以上は釣ってはいけないこと
- c. 持ち帰りサイズ、尾数の制限。バッグリミット以上釣ってもよく、制限以上釣った場合は、超えた分をリリースすればいい



★正解率は大阪(一般)15%、横浜(一般)19%、横浜(メーカー)36%であった。言葉は知っていても、意味を正しく理解しているわけではなく逆に大阪(一般)72%、横浜(一般)68%、横浜(メーカー)62%と大変多くの方が【バッグリミット】を『…その数以上釣ってはだめ…』と誤解していた。

【設問3】JGFAがバグリミットを提唱していることを知っていますか？

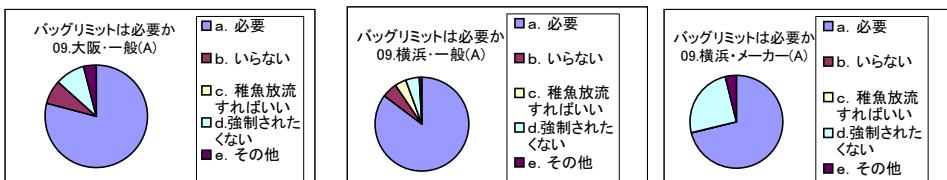
- a. はい
- b. いいえ



★JGFAが提唱しているのを認識していた方の比率は大阪(一般)45%、横浜(一般)57%、横浜(メーカー)58%とどの区分でも似ており我々JGFAとしては【バグリミット】提唱に今一歩のさらなる努力の必要性を感じた。

【設問4】バグリミットは今の日本では法制化されていないがどうか？

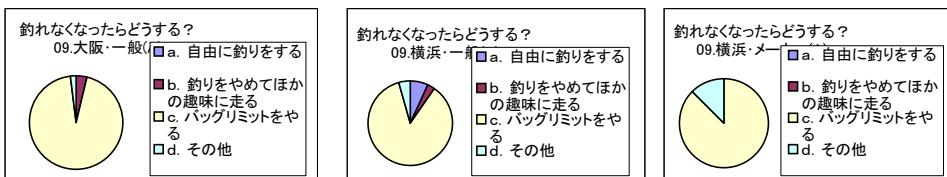
- a. 必要
- b. いらない
- c. 稚魚放流すればいい
- d. 強制されたくない
- e. その他
- d. 強制されたくない
- e. その他



★『必要』が大阪(一般)79%、横浜(一般)85%と【バグリミット】の必要性を非常に高く評価回答している。また、横浜(メーカー)71%は中では最も低く、さらにまた「強制されたくない」との回答が25%であり大阪(一般)9%、横浜(一般)5%よりはるかに高いのは興味深い。

【設問5】無制限な釣りのままで、釣れなくなったらどうする？

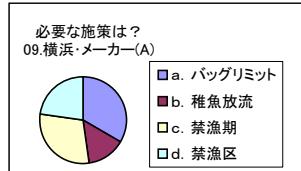
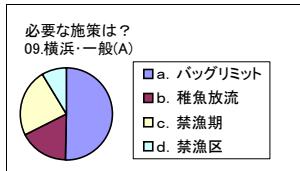
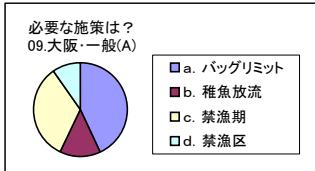
- a. それでもいい、自由に釣りをする
- b. 釣りをやめてほかの趣味に走る
- c. 釣りはやめたくない。バグリミットをやる
- d. その他



★『釣りはやめたくない。バグリミットをやる』=『持ち帰り規制を実践する』という回答が大阪(一般)94%、横浜(一般)86%、横浜(メーカー)88%とやはり非常に高く、【バグリミット】の必要性はここでもさらに高く評価回答されている。また、横浜(メーカー)ではその他でライセンス導入の意見もあった。

【設問6】日本の海釣りで釣魚資源を維持するのに必要な施策は何か？(1位に上げた数を集計)

- a. バッグリミット
- b. 稚魚放流
- c. 禁漁期
- d. 禁漁区



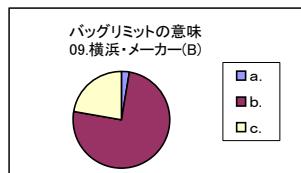
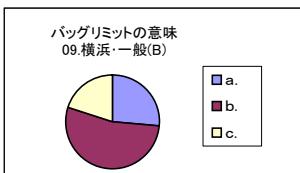
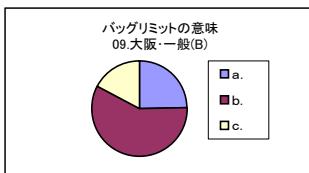
★1位の【バッグリミット】に関しては、大阪(一般)43%、横浜(一般)50%と近いが、アングラー側より横浜(メーカー)33%とやや低い。稚魚放流を選択した比率は3者とも14%~17%と大差なく、いずれも3位であった。また「禁漁区」「禁漁期」と釣りができない場所および期間の実施が有効という意見がメーカー側から出たのは意外であった。

次にバッグリミットという言葉を知らない回答した人のそれぞれの回答を示します。

【B】バッグリミットという言葉を「知らない」と答えた人の回答

【設問2】バッグリミットの意味を知っていますか。(正解はC.)

- a. 釣ったらその場でバック(戻す)つまり、リリースすること
- b. バッグリミット以上は釣ってはいけないこと
- c. 持ち帰りサイズ、尾数の制限。バッグリミット以上釣ってもよく、制限以上釣った場合は、超えた分をリリースすればいい



★【バッグリミット】という言葉を知らないしながらも、正解率は「知っている」と回答したグループと大差ない結果で、大阪(一般)17%、横浜(一般)20%、横浜(メーカー)22%であった。またAグループ同様、大阪(一般)58%、横浜(一般)54%、横浜(メーカー)75%が【バッグリミット】を「…その数以上釣ってはだめ…」と勘違いしている回答結果となった。

【設問3】JGFAがバッグリミットを提唱していることを知っていますか？

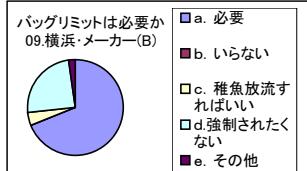
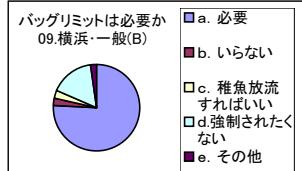
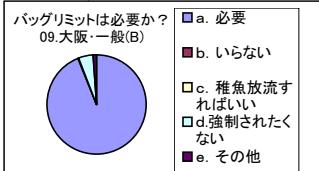
- a. はい
- b. いいえ



★バッグリミットを知らない言いながら、JGFAが提唱しているのを知っているというものは、おかしい話だが、ニュアンスとしてJGFAが提唱していると感じた結果であろう。アングラー、メーカーとも同様な傾向を示した。

【設問4】バッゲリミットは今の日本では法制化されていないがどうか？

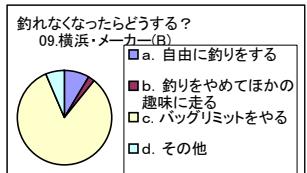
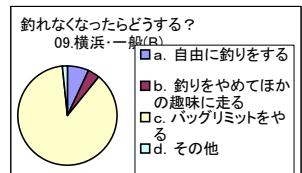
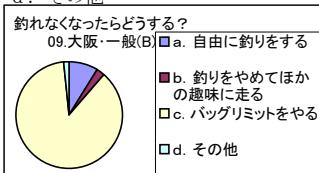
- a. 必要
- b. いらない
- c. 稚魚放流すればいい
- d. 強制されたくない
- e. その他
- d. 強制されたくない
- e. その他



★回答傾向はAグループと同様で【バッゲリミット】を必要と回答したのは大阪(一般)94%、横浜(一般)76%、横浜(メーカー)69%であった。ここでも興味深いのは横浜(メーカー)で「強制されたくない」が24%と大阪(一般)5%、横浜(一般)16%のアングラーより多い傾向を示した。

【設問5】無制限な釣りのままで、釣れなくなったらどうする？

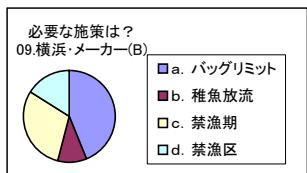
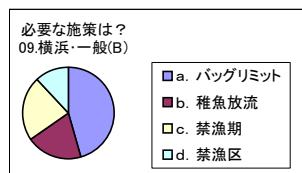
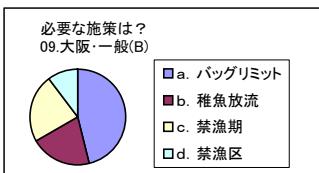
- a. それでもいい、自由に釣りをする
- b. 釣りをやめてほかの趣味に走る
- c. 釣りはやめたくない。バッゲリミットをやる
- d. その他



★大阪(一般)87%、横浜(一般)90%、横浜(メーカー)83%といった具合にどのグループも【釣りはやめたくないバッゲリミットをやる】と非常に高く回答している。つまり【バッゲリミット】の言葉に限ることなく【持ち帰りの規則】の必要性と重要度は一般アングラーこそ今や十二分に理解しているということだ。ここでもさらに興味深いのは横浜(メーカー)2%の方が「釣れなくなったら釣りをやめ他の趣味に走る」と答えていることだ！

【設問6】日本の海釣りで釣魚資源を維持するのに必要な施策は何か？(1位に上げた数を集計)

- a. バッゲリミット
- b. 稚魚放流
- c. 禁漁期
- d. 禁漁区



★【バッゲリミット】という言葉を知らないという方でも、このアンケートを通じて、どのような政策方策を講じたらよいかという質問に、やはり【バッゲリミット】=持ち帰り規則の重要性を理解しており大阪(一般)46%、横浜(一般)42%、横浜(メーカー)44%の1位回答が得られた。

【2009年度 JGFA・バッグリミットアンケート結果 総評】

★【バッグリミット】という言葉とその意味内容の認識度は我々の予想通り、まだ十分ではありません。しかし、同義語である【釣魚の持ち帰り規則】の必要性は立場、地域、釣法ジャンル、性別、年齢を超えて回答者の約90%にも及ぶ方がその必要性を望んでいることが十分に理解できる内容でした。これは我々JGFAのタグ＆リリース魚類保護委員会のメンバーをも驚かせるに十分な結果でもあったのです。

★反面、本来最も釣魚の保護保全に注意をそそぐべき釣具メーカー側の回答の中には首を傾げたくなるような興味深いものがいくつかあること、つまり、釣り人側の危機感と、本来、資源保全に主導的立場にあるべきメーカー側のそれとは開きがあるのがアンケート結果に見てとれます。はたしてメーカーのアンケート回答が本当にメーカーの意志を反映するものなのか？単に回答担当者の個人的な意見なのか？は知る由もないのですが、前者であってはならないのは当然のことと考えます。

★今回のアンケート結果がもちろんすべてを物語るものではありませんが、バッグリミットという言葉に関して今まで問い合わせられたことのないアングラーの意識と、釣具メーカーの意識とを相当な部分で十分にうかがい知ることができるのはご覧になってのとおりです。

★「自由に魚釣りをする」これは我々アングラーの一つの理想です。しかし、「環境や資源は有限」ということは今や世界の自明の理であり釣り人と魚の関係は無制限なルールの下では明るい未来は決してあり得ないことは、どなたにでも理解できる理屈もあるのです。

★今回のアンケートが示す最大の結果は「釣り界のためのより良い法律の作成に釣り人からの障害はないのだ」という素晴らしい答えを得たことでしょう。

★JGFAのスローガン「いい釣りをいつまでも」を実践できる最大で最高の手法は釣魚の資源に常に关心を払っている多くの国々で実施されている【バッグリミット】であることを我々は、このアンケートを持って確信した次第です。

【釣具メーカーの代表者様ならびに従業員の皆様へ】

私たちJGFAは、ひとりの釣り人として、また、日本の釣りの将来を心底憂慮するものとして、このバッグリミットのアンケートを昨年より実施し、釣り人の皆さんやメーカーの皆さんの関心と理解を深めていただき、近い将来、日本の釣りにもバッグリミットが制定されることを目指しております。メーカーの代表者として、また、企業として、「日本の釣りに貢献する何か」をぜひお考えいただくことを心より期待いたします。